

# 公益財団法人ちばのWA地域づくり基金 2017年度 事業報告

(2017年4月1日～2018年3月31日)

## 【2017年度概要と成果】

2017年度は、マルチステークホルダーによる課題解決の取り組みを促進し、インパクト志向の助成事業を実施するために、昨年度から継続してコレクティブインパクト事業や助成プログラムのリニューアルに取り組みました。

一方で資金調達が計画通りいかず、財政的に厳しい年となりました。改めて当財団の強みは何か、地域に果たす役割は何か、目指す地域とはどのような状態なのかを内省し、財団の価値を継続して見出していく必要性を実感した年となりました。

特に今年度は以下の3点を重点テーマとして取り組みを進めてきました。

### ○寄付受け入れ体制の強化

多様な寄付の機会を提供するために、遺贈寄付拡大のためのセミナー開催、「いぞう寄付の窓口」の周知と相談対応を強化した。その結果、冠基金「さくら基金」の設置や相続診断士会等の専門家とのネットワークづくりにつながった。

また、だれもが気軽に寄付に参加できる仕組みとして、寄付つき自動販売機の設置、リサイクル品による寄付プログラム（「カイトリ」、「ボランティア宅本便」、使用済みインクカートリッジ）の体制を整えた。

課題解決事業への資金調達は、団体とのコミュニケーションやインセンティブに課題が残った。

### ○助成事業の質の向上

2016年度から継続している全国コミュニティ財団協会の事業、多様な主体による課題解決を目指すコレクティブインパクトモデル事業では、支援対象を絞るための中学生アンケートや地域円卓会議を実施し、行政や教育機関、市民、公益活動団体等と課題の顕在化と共有ができた。

テーマ型基金「子どもの今と未来を支える基金」については、協働事業や共通の目標を持つプロジェクトチームへの支援が可能となるよう要項及び選考基準の変更をした。

### ○持続可能な組織運営体制構築

クラウド型ソフトウェアを導入し、管理業務の効率化を図った。

また、法人の信頼性や事業拡大を進めていく上で必要となる規程類、寄付金取扱規程や業務受託基準等の整備を始めた。

冒頭にも触れたが、財源づくりの面では課題が残った。

## 【公益目的事業：公益活動支援助成事業】

### 1. 助成に関する事業

2017年度は総額818,600円を助成した。内訳は、事業指定助成が61,600円、テーマ型が757,000円だった。

また事業指定助成、テーマ型助成の2事業を対象に伴走支援を実施した。

#### (1) 事業指定助成プログラム

事業計画に基づき、第6期の助成先募集、決定、寄付募集を行った。

本プログラムは、公募・審査を経て採択された公益活動（事業）に対して市民公益活動団体（NPO）と財団が一緒になって寄付を集める資金調達プログラムであり、当財団はホームページ内に専用ページの設置や寄付カタログの提供を行い、寄付を募った。また、採択団体に資金調達に関する研修を実施し助言を行った。

・寄付募集期間：2017年10月1日～2018年3月20日

事業名・団体名	目標額	寄付額	件数	達成率	助成額
チャンス創造ファンド～働きづらさを抱える人が就労支援を受ける機会を増やしたい（NPO 法人ユニバーサル就労ネットワークちば・千葉市）	600,000円	77,000円	11	12.8%	61,600円

#### (2) テーマ・地域提案型助成プログラム

##### ①子どもの今と未来を支える基金

未来を担う子どもたちが健やかに育つ地域社会をつくるために当財団が設置したプログラムで、リーフレットやウェブを活用し寄付を募った。個人寄付による原資を積み上げ、60万円の助成を行なった。助成事業の成果を高めるための伴走支援や活動現場訪問等も合わせて実施した。

2017年度は成果志向の助成事業を行うために、要項及び選考基準の変更を行った。

##### ■子どもを取り巻く社会課題の深掘りと解決策の先行事例の調査・発信・共有助成

- ・助成先：NPO 法人ダイバーシティ工房「発達障害児の支援者を増やすための基盤づくり」
- ・助成金額：50万円（2016年度助成実施）
- ・助成対象期間：2017年1月1日～10月31日 ※団体の申し出により1ヶ月の事業期間延長
- ・報告会：10月28日（土）ダイバーシティ工房スタジオ plus+本八幡教室にて開催。10名参加
- ・調査報告書500部作成し学校、関係機関、医療機関へ理解者を増やすための共有を行う。
- ・事業指定助成プログラムでの課題共有と資金調達は実現しなかった。

## ■活動支援助成

- ・助成先：

団体名	所在地	事業名	助成額
NPO 法人ネモ ちば不登校・ひきこもりネットワーク	習志野市	フリースクールで行われる多様な学習支援	200,000 円
NPO 法人ウィーズ	船橋市	離婚後の親子の面会交流に関するイベントの開催	200,000 円
NPO 法人カフェ・バルコニーの家	千葉市	モーニング子供食堂	200,000 円

- ・助成対象期間：2017年4月1日～2018年3月31日

## ②九州北部豪雨災害募金

7月の九州北部における豪雨災害により、被害を受けた地域での支援活動を支援するため、緊急募金を実施し、全額を助成した。

- ・寄付募集期間：2017年7月18日～9月15日
- ・寄付状況：157,000円
- ・助成先：朝倉災害母子支援センターきずな（福岡県朝倉市来春 328-1）
- ・助成額：157,000円

## ③冠基金プログラム

### ■さくら基金（新規設置）

個人の方からの支援先についての相談から、冠基金新規設置につながった。

具体的には、設置者以外からの資金追加を可能とし、児童養護施設から社会に巣立つ子どもたちが自立した生活を送ることができるように、今後、支援団体が実施するキャリア支援事業やアフターケア事業などに対し助成される。

当財団としては資金の追加募集を行い、助成事業の案件組成を行う。

### ■生活クラブ虹の街エッコロ福祉基金

2015年度に助成した7団体の事業報告と交流会を開催した。冠基金設置者である生活クラブ生協組合員や選考委員も参加し、各団体の活動による成果を共有し、団体同士の交流を図った。

- ・日時：7月12日（水）10：10～13：00
- ・場所：生活クラブ虹の街地域交流スペース渚
- ・参加者：23名
- ・報告団体：

団体名	所在地	事業名
日本語を母語としない親と子どものための進路ガイダンス実行委員会	千葉市	日本語を母語としない親と子どものための進路ガイダンス説明会 2016inCHIBA

フードバンクちば	千葉市	フードバンク事業を基点とした中間的就労の場づくり
NPO 法人 B-Net 子どもセンター	酒々井町	第10回 B-Net 子ども夏祭り～僕たちがつくる酒々井の夏～
NPO 法人コミュニティワークス	木更津市	水耕栽培事業（生活介護）
NPO 法人カフェ・バルコニーの家	千葉市	作業効率と安全性を確保するための事業所改装
NPO 法人千葉盲ろう者友の会	千葉市	盲ろう者の掘り起こし事業
NPO 法人ほっとすぺーす・つき	佐倉市	居場所事業

## 2. ファンドレイジング・チャリティに関する事業

2017年度は寄付総額 2,218,347 円と計画通りの資金調達ができなかった。内訳は事業指定助成プログラム 77,000 円、テーマ型 744,309 円、冠基金 500,000 円、財団運営寄付 897,038 円だった。

新規の取り組みとしては、直接的な寄付以外にも気軽に公益活動支援に参加できる仕組みとして、不用品、使用済み品のリサイクルによる受け入れ体制を構築した。12月の寄付月間 2017 では、ボランティア宅本便を公式イベントとして参加した。

また、遺贈寄付開拓のため全国コミュニティ財団協会から委託を受け、遺贈寄付に関する情報発信、専門家とのネットワークづくり、遺贈寄付セミナーを開催した。

### ① 多様な寄付の機会の提供

- ・寄付付き自動販売機（支援ベンダー）：新規設置 2 台（合計 6 台）
- ・買取寄付プログラム「カイトリ」：チラシを DM にて送付。実績なし。
- ・ブックオフオンライン・ボランティア宅本便：寄付件数 3 件
- ・使用済みインクカートリッジ回収ボックス設置：7 ヶ所
- ・寄付付き商品：認定 NPO 法人リヴォルヴ学校教育研究所（茨城県）発行の英単語カレンダー、ひらがなれんしゅうちょう等をパルシステム千葉、生活クラブ生協の組合員向けに販売した。

### ② 財団運営支援

継続的に財団運営を応援してもらう仕組みとしてのサポーター登録の呼びかけを実施。その結果、サポーター個人 16 名、法人 2 社となり寄付額は 363,000 円となった。

12 月には歳末チャリティキャンペーンとして既存寄付者に寄付を依頼し、年間合計約 534,000 円の寄付となった。

### ③ 遺贈寄付促進

全国レガシーギフト協会加盟団体として千葉県の相談窓口を担当、相談件数 2 件。

遺贈寄付の相談から実際の執行までには時間がかかるため、地道な周知活動と丁寧なコミュニケーションが求められる。受け入れ体制づくりとして、全国レガシーギフト協会主催の相談員研修への参加、相続診断士、税理士、司法書士とのネットワークづくり、遺贈寄付セミナー開催に取り組んだ。

- ・相談員研修：4回（6/6、8/23、10/5、12/14）
- ・士業向け遺贈寄付セミナー：11月22日@クロス・ウェーブ幕張、12名参加（司法書士・税理士・行政書士・FP他）、参加者満足度88%
- ・NPO向け遺贈寄付セミナー：1月25日@千葉県ビジネス支援センター、22名参加、参加者満足度87%

### 3. 地域支援

ソーシャルセクターも淘汰されていく時代に、コミュニティ財団として単なる団体支援だけではなく、課題の実態に即した案件組成から資源調達を担い成果を収めるために、2016年度よりモデル事業として松戸市で取り組んでいる。本事業では、パートナーとしてNPO法人まつどNPO協議会と取り組み、松戸市や松戸市教育委員会にも協力していただき実施した。

#### ■社会的投資時代の新水準に合致したコミュニティ財団セクターの機能強化事業（コレクティブインパクトモデル事業）（全国コミュニティ財団協会委託事業）

持続可能な地域社会づくりを構築するために、多様なセクターが枠を越え互いに強みやノウハウを持ち寄り、同時に社会課題に対する働きかけを行うことにより、課題解決や大規模な社会変革を推進することを目的とした事業で、日本財団から助成を受け全国コミュニティ財団協会が委託し実施された。

千葉では2016年度より継続して「社会的孤立を防ぐコレクティブインパクト」として実施した。

#### 【2017年度実施内容】

- ・背景：松戸市生活保護受給率千葉県第2位、市、教育委員会「子どもの貧困問題」を重点課題として取り組む
- ・テーマの再設定：家庭に係る状況に起因する不登校問題
- ・KGI（最終目標達成指標）：家庭に起因する不登校児童生徒数をゼロにする
- ・実施内容：支援対象者の設定のための調査実施と課題の共有
  - ① 関係各所へのヒアリング（市担当課、支援団体）
  - ② 支援団体による現状共有の円卓会議
  - ③ 中学2年生1500人を対象にアンケート実施（教育委員会）
  - ④ 母子世帯で生活保護を受給している世帯の状況調査（市担当課）
  - ⑤ 不登校の要因について調査、問題構造分析
  - ⑥ 当事者へのヒアリング
  - ⑦ 地域円卓会議視察（みらいファンド沖縄）

⑧ 地域円卓会議 in 松戸開催：参加者：53名、満足度 4.3/5

#### 4. 情報収集・発信

ホームページ、ブログ、SNSによる情報発信を随時、メールマガジンを月に一度発行した。

また年次報告書ダイジェスト版を作成し、寄付者や関係者に配布したほか、成果報告会を開催し助成事業による成果を共有し、参加者同士の交流を図った。

#### ■助成事業成果報告会 2017

- ・日時：7月29日（土）13:00～17:00
- ・会場：千葉市ビジネス支援センター 会議室1・2
- ・参加者：28名
- ・参加団体・報告事業：

##### 【事業指定助成プログラム第3・4・5期】

公益財団法人金谷美術館「鋸山登山道整備事業」

NPO 法人子どもの環境を守る会 J ワールド「中高生の居場所『ユースペース』運営事業」

報徳の会「廃校を再生して地域の活力を取り戻すための活動拠点づくり『内田未来楽校』」

##### 【冠ファンド「東日本大震災被災地・被災者支援活動助成」】

わかば「お茶っこ」しよう会「地域みんなで震災支援『お茶っこ』」

iii Project（トリプルアイプロジェクト）「震災から5年～見つめ直そう私たちに出来る事～」

##### 【子どもの今と未来を支える基金】

NPO 法人世界のともだち「家庭訪問型子育て支援 しゅっぽっぽ」

認定 NPO 法人生活困窮・ホームレス自立支援 ガンバの会「夢塾で笑顔を（生活困窮家庭を応援する学習支援）」

#### 5. 他機関等との連携

##### ①一般社団法人全国コミュニティ財団協会との連携

全国コミュニティ財団協会の一員として全国のコミュニティ財団と情報共有、相互研鑽を行った。2017年度はコレクティブインパクトモデル事業の実施、研修に加え、プログラムオフィサー研修4回、事務局研修、監事研修、公益法人制度・運営基礎研修など人材育成に重点をおき、コミュニティ財団の底上げを図った。

また、理事団体として関東ブロック会議を2回開催し、情報共有、相互支援を行なった。

##### ② ちばソーシャルビジネス支援ネットワーク

地域社会の課題をビジネスの手法で解決するソーシャルビジネス事業者を支援するため、2017年1月に発足した本ネットワークに支援機関として参加した。

## 6. その他

- ・印西市市民活動推進委員会に年 6 回出席し、主に企画提案型協働事業の審査にあたった。
- ・千葉県協働まちづくりセミナー「寄附による志金の循環を学ぼう！」講師
- ・視察、取材の受け入れを 3 件対応した。

## 【法人運営（管理）事業】

### 1. 機関会議の運営

#### （1）理事会の開催

定例理事会を4回、臨時理事会を1回開催した。

- ・第1回理事会（2017年5月11日18時～20時30分 ホテルメイプルイン幕張）  
2016年度事業報告及び決算案、定時評議員会開催内容、2015年度計算書類修正等
- ・臨時理事会（2017年6月27日 みなし決議）  
主たる事務所の移転の承認
- ・第2回理事会（2017年9月27日 みなし決議）  
「九州北部豪雨災害緊急募金」助成先の承認
- ・第3回理事会（2017年12月12日18時～20時30分 財団事務所）  
テーマ型基金「（仮称）地域づくり基金」設置承認等
- ・第4回理事会（2018年3月13日18時～21時 財団事務所）  
2018年度事業計画及び予算、冠基金「さくら基金」新規設置の承認等

#### （2）評議員会の開催

定時評議員会を1回開催した。

- ・第1回評議員会（2017年6月13日18時～20時 ホテルメイプルイン幕張）  
2016年度事業報告、決算書類決議等

#### （3）監査の実施

- ・監事が全3回の理事会にいずれも出席し、業務監査を実施した。
- ・2017年5月2日に2016年度の監査を実施し、監査報告書を作成した。

### 2. 寄付者等の情報管理（Donor Relationship Management）

個人情報保護規定等に従い、寄付者等財団支援者の情報管理を徹底するとともに、DM等で寄付者への事業・成果報告、コミュニケーションを円滑に行えるよう、Salesforce社のシステムを利用、データベースの適切な管理と活用を行った。

Salesforce利用にあたっては、Salesforce社や（公財）京都地域創造基金のサポートを受け、効率運用できるよう取り組んでいる。

※Salesforce：CRMクラウドサービスを提供する業界トップのグローバル企業。NPO法人等への無償提供プログラムなどCSRにも積極的に取り組む。<http://www.salesforce.com/jp/>

### 3. その他

- ・2017年7月、法人事務所を千葉市中央区春日1丁目20-15篠原ビル301に移転した。
- ・事務局業務は専従3名体制で行った。

2017年度 ちばのWA地域づくり基金助成褒賞選考委員会  
選考会開催状況

■事業指定助成プログラム第6期

- ・ 日時：2017年9月2日（土）
- ・ 会場：千葉市ビジネス支援センター 会議室5
- ・ 出席者（選考委員・五十音順・敬称略）：  
阿部 剛、石川 智章、岩村 真奈美、清水 洋行、戸谷 久子
- ・ 選考方法：申請書類及び団体情報開示内容とプレゼンテーションをもとに、選考委員5名による絶対評価による審査を行った。
- ・ 選考結果：1事業採択